

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 発行
神奈川 碩心会 認可

現在 63年4月
地区 子地
区 山地
計 船地
(合) (計)

員数 169名
名数 279名
名数 60名
名数 (508名)

63年4月号 (189号)
者 者
根 岸 岳 萃
編 集 者
中 村 愛 岳

国技の殿堂に 全国から結集

行 谷 佳 風

祖宗範の遺徳を偲ぶに相応しく、春分の日
の三月二十日、岳風会法人化二十周年記念
第93回全国吟道大会が、国技の殿堂両国
国技館大鉄傘下に、全国163認可団体代表
七千名を結集して、盛大豪華に開催された。
大会は、定刻、著名アナ鈴木治彦の司会
により、型通り修礼、国歌斉唱、開会の辞、
優勝旗返還、理事長御製誦、朗詠の大会
吟と、セレモニーは単々と進行されたもの
と推測され、と申すも、碩心会参加者の大
半が、バス利用のため、予想を遙かにこす
交通渋滞に阻まれ、出発を早めたにも拘ら
ず、定刻を一時半も遅れ、吾々が参画し
たのは、既に合吟コンクールの進行中であ
った事に起因し、誠に残念の一語に尽きる
訳である。

の春1でした。
昼食休憩後再開され、日本列島北から南
へは、北海道本部の石狩川からスタート、
ステージ正面、左右のスクリーンには詩の
背景がテロップで映し出され、いやが上
にも詩情をかきたてながら進行、中段神奈川
の稲村懐古には、五名の中に松井正風さん
の晴姿も見え、やがて九州から四国の海南
行を最後に多大の感銘を残して終了した。
間髪をおかず会旗入場のアナウンス、軽
快な行進曲のリズムと、盛んな手拍子に迎
えられて、ステージに進む会旗は数知れず、
場内は、感激と興奮の堆場となる。
続いて式典に移る。松井名誉大会々長の
挨拶は、祖宗範の遺訓と遺業を継承し、常
に礼讓の心を以って道義を重んじ、流統の
研鑽に励むと共に、人格の向上に努め、遺
訓の精神に応えようと呼びかけられた。
来賓祝辞に立った日本吟剣詩舞振興会笹
川会長は、TVでお馴染みであり、祝辞は
型通りであったが、90才に及ぶ高令に拘ら
ず、そのきびきびした立ち振舞に、会場の
一同啞然としてしまった。
やがてコンクール表彰に進み、優勝は、
新大阪岳風会女性チームの連覇と発表され、
数々の賞品が授与された。次いで三名の功
労者表彰が行われ、吾々も熟知の記念館々

長竹ノ内岳宗先生も、そのお一人でした。更にプロは日本の四季へと進み、神奈川は二番目に、橘川先生先導により「さくらの歌」を其の場で起立、合吟しました。

大会悼尾を飾って、新国劇座員による創作劇「吟聖木村岳風」が演じられ、劇中、志垣太郎扮する木村青年が、堀内中将邸で吟ずる場面は、祖宗範の朗々たる吟声に合せての好演技に、会場の拍手はなりやまなかつた。そして最後の光野先生の万才三唱で大会の幕は下ろされた。

「さくらの歌」

殿堂をゆるがす

銀詠 三壁 照風

彼岸とは思えぬ寒さの中、胸を弾ませバスで一路大会場へと向う。車の渋滞のため修礼の時間に間に合わなかつたことは残念であつた。

さて国技館の大門をくぐると、全国から集まつた同胞が色とりどりのワッペンをつけて、大会気分を大いに盛りあげていた。会場の扉を開けると、場内には熱気が満ち溢れ、舞台の上はコンタールの真最中。そして「日本列島北から南へ」では数々の名吟を、その土地々々の風景、歴史を背景に素晴らしい吟者により、叙情豊かに吟じら

れ深い感動を覚えた。

午後から行なわれた会旗入場、割れんばかりの拍手の中を堂々たる行進、白い手袋がひときわ清々しい。御来賓の諸先生方の御慈愛溢るゝ御挨拶と式典は恙なく終る。続いて「四季の歌」。橘川先生先導のもと、我が神奈川千数百名による「さくらの歌」の大合吟が、広い場内狭しと響き渡り、万雷の拍手を浴びた。余韻が飴となり総身に心地よい安らぎを与えてくれた。

最後の創作劇では、岳風先生の純粹で、雄々しきお姿を眼の当り見る如きして、唯唯感服の至り。先生の御遺徳のかくも盛大にして、且つ厳肅な大会を成し得た事は、岳風流を学びたる私達にとって大いなる喜びであり又誇りでもあつた。

蒼天をつきさす朴の芽の尖り 照子

◎神・静地区選抜予選会

とき・63年5月5日(祭)

ところ・三島市公会堂

出場者・上村象風・立沢御風・松井正風

◎神奈川県本部総会

とき・63年5月8日(日)

ところ・横須賀労働会館

奥伝合格 (63年4月1日付)

おめでとうございます

- 308 西尚祥風
- 329 矢嶋晃風
- 335 飛田與風
- 341 池田延風
- 344 加藤芳風
- 351 大坪克風
- 760 小川清風
- 324 荒木佳風
- 330 高米定風
- 337 小菅幸風
- 342 黒崎幸風
- 347 広瀬晴風
- 352 井上順風
- 768 真下華風
- 327 矢島佳風
- 331 小西勝風
- 340 小池和風
- 343 長谷川清風
- 349 吉井道風
- 353 広田功風
- 781 柳良風

過日審査後の講評の中で、常盤先生より左記三名の方について、特に名前を公表され大変おほめの言葉をいただきましたので、ごく簡単なプロフィールをまとめました。

◇宮田華山さん 83才：声量あり、節調よし
詩文も正確。常日頃から年令を感じさせぬ吟に対する姿勢に、指導の側が頭の下る思いとか。

◇平 信山さん 78才：声よし、節調よし
漢詩、和歌を最後まで立派に吟じられた姿に涙ができました。加えて態度物腰のよさは学ぶべき所。雲井龍雄の末裔とかで小さい時から詩吟が大好きだったとの事。

◇若林翠山さん 19才：上智大学在学中。学校では授業にはじまりすべて英語を使用。日本語を忘れない為にもぜひ詩吟を：とは祖母西岡江風さんのお話し。

小さな提案

唐木山 深川 東山

昇段試験後を締め括る、審査の諸先生方の講評は、未熟の私にとって、大変参考になることが多く、成程成程と何度も頷かされる貴重な教訓となっています。斯様な滋味掬すべき講話を承りますと、あの時はこういう節廻してやるべきだった、もう少し音調を落すべきだった、又姿勢や態度はどうであつたらうかなどと、今後の技術やマナー改善のための珠玉の指針と反省材料を与えてくれます。

講評とは抑々総括的評価を示すもので、受験者個々に対する注意忠言は、時間的制約からして至難と云えましょう。併しこのような昇段試験は、私共が斯果の鏗々たる権威に肌で接する又とない機会でもありません。この貴重な場を有効に生かすため、講評後せめて十分乃至十五分程、質疑応答の機会を設けて下さいませよう、運営面で敢えて御提言申上げる次第です。例えば

1. 吟題や音読訓読の変更の根拠
2. 作者の呼称（象山はそうさんかしょうさんか？）
3. 詩文の内容の歴史的背景（通釈のみで

は今一つ不備な点があるように思いますが、

4. 若者不在の根本的理由

その他素朴な疑問が各位にもある筈です。現在我が傾心会は幸い五百名の大台を維持していますものの、此の処漸減の兆しがない訳ではありません。根岸会長が更に多くの会員の獲得と若返りを計るため、各教場を通じ檄を飛ばしておられることは既承の通りですが、会長先生の切なる願望にお応えすることが、本会一層の隆盛に繋がることは明らかです。

何卒前記些細な弊案を指導者の諸先生方の間で、真剣に御討議下さいましたら望外の幸いであります。

63. 4. 1 現在
傾心会支部別会員数一覧表

地区	支部名	会員数	指導者名
逗子地区 169名	逗子A	71	根岸・千葉(剣) 一柳・松井(正) 三井・立沢
	逗子B	9	三井
	桜山A	12	三井
	桜山B	7	広瀬
	沼山間	17	三井・松野・清水
	根詠澄月	5	三井
	銀真葉	16	千葉(剣)・千葉(香)
		19	村田
		13	広瀬
葉山地区 279名	堀内	90	
	一色A	33	鈴木(第)・守谷 加藤(相)
	一色B	13	黒崎
	山原	11	伊藤
	唐木山口	11	寺脇
	下吟	15	沼田(光)・沼田(鏡) 沼田(光)・渡辺
	柄訪	13	竹石
	山口坂	15	井沢
	早松	6	秋元
	滝風平	13	上村・佐久間 杉山 行谷
大船 60名計	大船A	9	根岸・岩崎
	大船B	20	三井・森田・田上
	塚和	7	鈴木(榮)
	大戸松	24	木村・宇都宮
計	27支部	508名	44名

練吟 花と鳥

○中国の言葉は単音孤立語である。だから各語を結びつけるテニヲハ（送り仮名）がなくても、語の順序で言葉がわかるような仕組になっている。従って、読み相違が出れば、文意も当然相違を生ずることになる。杜甫の「春望」の第三句、第四句を例にとることにし、まず白文で示すと

「感時花濺淚 恨別鳥驚心」

○教本（2・97）は、これを次のように訓読している。（送り仮名の多いのにご注目）

「時に感じては花にも涙をそそぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす」

〔教本の通釈簡に過ぎ意不詳により補充〕
 「このように乱れたど時世に感しては、平和な春ならば花を見て楽しいはずなのに、かえって花を見て涙をはらはらと流し、家族との別れを恨み悲しんでは、心を慰めてくれるはずの鳥の声にも心を驚かしているありさまである。(筆者注・杜甫自身がである)」

○現在市販されている漢詩の参考書はもちろん、吟詠界使用の教本は一般に右と同様の訓読をしており、この読みは定着していると見てよい。しかし、次のように読みくだすこともできるので、漢詩を勉強する資料にしていたきたい。

「時に感じて花は涙をそそぎ
 別れを恨んで鳥は心を驚かす」

(右の通釈) 時世のありさまに悲しみを感して、花も心をいためるのであろうか涙をこぼすように、はらはらと散る。また人々がちりぢりになってしまった不安な空気の中では、鳥のなき声も何となく不安げである。

このように涙をそそぐのは花であり、心を驚かすのは鳥である。その証拠に、今の中国語にも「驚心吊胆」という言葉があり、おっかなびっくりの意である。(吉川幸次郎・三好達治共著 新唐詩選)

○教本の通釈も、後者の通釈も「花」については素直に了解できるが「鳥」については後者の方がなんとなくわかる気がする。ここで筆者の申したいことは、始めに指摘しておいたが、例題の五言二句で送りがない18字はあまりにも多い。漢詩の読みはむかしから簡潔がよいとされている。例を挙げると次の七言詩(二句のみ記載)は、送り仮名はわずかに4字である。

芳野 梁川 星巖
 今来古往事茫茫 石馬声無く杯土荒れたり

(支部長変更)

長柄支部長磯部誠岳に代り49笠原珠岳に(住所変更)

156 西岡江風左記に住所変更

葉山町一色二〇〇
 (電)〇四六八―七五―四四三八

(入会)

829 伊藤 敬 藤沢市本町一―二―二二
 (松 和) (電)〇四六六―二二―二二
 830 金田 洋 横浜市泉区白百合二―五―一七
 (松 和) (電)〇四五―一八―一四六八六
 831 藤崎良司 横浜市瀬谷区中央三五―一―四
 (松 和) (電)〇四五―一三〇―一―一五五七

832 原田義男 逗子市桜山一―二―一八
 (桜山B) (電)〇四六八―七三―一九七〇八

833 上村幸枝 葉山町堀内二八五
 (滝ノ坂) (電)〇四六八―七五―三三九七

834 八尾明子 横須賀市不入斗四一四
 (一色B) (電)〇四六八―二二―八七二三

835 桐岡ハル 葉山町堀内二―八―四一三三
 (平 松) (電)〇四六八―七五―一六〇二二

836 磯部洋子 葉山町長柄一六一七
 (長 柄) (電)〇四六八―七五―一五八九

837 沼田愛子 葉山町長柄一三三二
 (長 柄) (電)〇四六八―七五―四八五六

838 松村 匠 千葉県浦安市堀江一―五―一
 (星 山) (電)〇四七三―五二―一九〇四

839 池田正子 葉山町下山口五六
 (星 山) (電)〇四六八―七八―八五一七

(退会)

215 矢島智山(上山口) 333 柳町平山(逗子A)

360 青山直山(星 山) 403 鈴木羊山(一色B)

459 小坂橋英山(堀内D) 468 松本隆山(堀内D)

529 田面春山(星 山) 695 鈴木誠泉(下山口)

789 藤本光子(逗子A) 801 岩田礼子(下山口)

(入会)

840 奥村秀子 葉山町一色七―一―三二
 (上 原) (電)〇四六八―七五―一八二五九